

編集後記

平成31年で始まった今年は、空前の10連休の中に改元し「令和」元年になりました。長く親しんできた「平成」は過去の時代となり、当初は耳慣れず新鮮な響きであった「令和」も今ではすっかりお馴染みとなりました。今回の改元は国を挙げての祝賀ムードで終始し、先月、好天の中盛大に行われた「祝賀御列の儀」や「大嘗祭」など、一連の式典が華々しくまた肅々と執り行われました。

一方、今年は台風、豪雨などの災害が相次ぎ、甚大な被害を受けた地域が多発しました。世界規模でも水害や森林火災、干ばつが増加しており、地球温暖化との関連が疑われています。気候変動は異常気象や大気汚染を通じて長期的には人々の健康へも影響するそうで、国際社会の取り組みが期待されるところです。

誌上ギャラリーには永田先生から「黄金色の海」をいただきました。夕日を浴びて黄金色に輝く有明海の水面は神秘的でさえあり、まるで一幅の絵の様です。

論説と話題は1年を振り返って、池田副会長、各医会会長、事務局、検査センター、夜間急病センターから年末のご挨拶をいただきました。ご寄稿、有難うございました。

医療トピックス「くすり一口メモ」は「国際的マスギャザリングに対応したワクチンの予防接種」です。来年の東京オリンピック・パラリンピックには、世界中から選手その他大勢の人々の来日が見込まれます。日本感染症学会のホームページでは国際的マスギャザリングに対応したワクチンについて、事前に受けておきたいワクチンと、患者発生時に接種を考慮するワクチンが紹介されています。本稿ではそれらの種類と接種間隔がまとめられています。

学術では鹿児島市医師会病院、婦人科の牧瀬先生から腸管マッサージ施術後に発症した卵巣チョコレート嚢胞破裂のまれな1例が提示され、合わせて同疾患19例についての後方視的検討も報告されました。

「切手が語る医学」は、ギリシャの首都アテネに次ぐ第二の都市テッサロニキの切手です。「テッサロニキの初期キリスト教・ビザンチン様式建造物群」は1988年に世界遺産に登録されています。いつも珍しい切手をご紹介くださる古庄先生には感謝申し上げます。

「リレー随筆」には鹿児島大学病院の村山先生から米国の学会への参加旅行記をいただきました。先輩医師に引率されて3人の友人との学会参加の様子を、記憶も確かな帰国途中の機内でご執筆いただきました。成田空港からの7日間の学会旅行の道中が、軽妙な筆致でいきいきと綴られています。「ながらスマホ」は運転中に限らず、いかなる状況でも危険を孕んでいるようです。今回の旅行で得られた貴重な経験も糧にして、これからのご活躍をお祈りいたします。

「各種部会だより」では勤務医会研修会、第3回市在宅医会事例検討会、市内科医会例会、第2回市在宅医療・介護従事者向け研修会について報告されました。

今年はラグビーワールドカップ日本大会が盛り上がり、迫力ある肉弾戦にわかラグビーファンが増えました。大健闘の日本代表は決勝トーナメントで敗れましたが、鹿児島で事前キャンプを行った南アフリカの優勝は、鹿児島市民としてはうれしい結果です。来年は56年ぶりの東京五輪が開催されます。日本のメダル獲得が期待されて準備が進む中、マラソン・競歩のコースが急遽、札幌に変更されました。東京での選考大会(MGC)も終了した後だけに、東京、札幌双方の関係者の落胆と混乱は計り知れません。鹿児島では10月に「燃ゆる感動かごしま国体・大会」が開催され、こちらも楽しみです。

今年も余すところあとわずか。令和の御世が良い時代となることを願いつつ、新しい年を迎えるといふ思います。

(編集委員 森岡 康祐)